

空手道で一番苦しかったこと

平成29年6月

西東京本部 つつじが丘支部

岩猿 智佳

空手を始めて、「型や技が覚えられない」「組手に勝てない」などといった山があった(ある)ものの、本部長・支部長・先輩・仲間からの温かいご指導や励ましのおかげで、さほど「苦しさ」を感じることなく、ここまで来られたと思う。

私にとって一番苦しかったのは、「入門」という一步を踏み出せなかったこと。

人一倍引っ込み思案で、行動を起こさない性格の自分を心身ともに鍛えたい、そのために武道をやりたいという思いは中高生の頃からあった。大学で念願かなって「弓道」部に入部。しかし2年目に的まで矢が届かなくなるほどのスランプに陥り、それを克服できないまま、3年目に退部。心身鍛錬どころか、自分の弱さに向き合うことなく逃げてしまった…という苦い思いを長らく抱えていた。

時は経ち、縁あって月心会の空手を長男が始めることになった。親子入門も可能だったと思うが、踏み出すことを恐れて、「運動らしい運動をしてない」「子供が小さい」など自分に言い訳をして逃げてきたように思う。長男の練習に次男・長女を同伴、そのうち次女も生まれ、道場外から練習を見学する日が続いた。

ある時、道場にいらしていた方より「うちも子供が小さいうちに始めた。運動経験ゼロだったけど…」といったお話を伺った。これからでも始められるかも…という気持ちが芽生えた。一念発起して、小さな子供を母に預け、体験入部。手を借りればできるかも…という可能性を見出した。そしてようやく入門という一步を踏み出すことができた。

今度は「昇段審査」という大きな一步。「空手道」への一步を踏み出すことになる。

弱い自分と向き合わないと越えられない壁も出てくると思う。そんな時には、温かく時に厳しくご指導くださる先生方・先輩方、大会で会える仲間、練習日に子供を見てくれる母、励ましてくれる家族、多くの方に支えられていることを忘れずに、壁にぶつかることを恐れず、空手を続けていきたい。